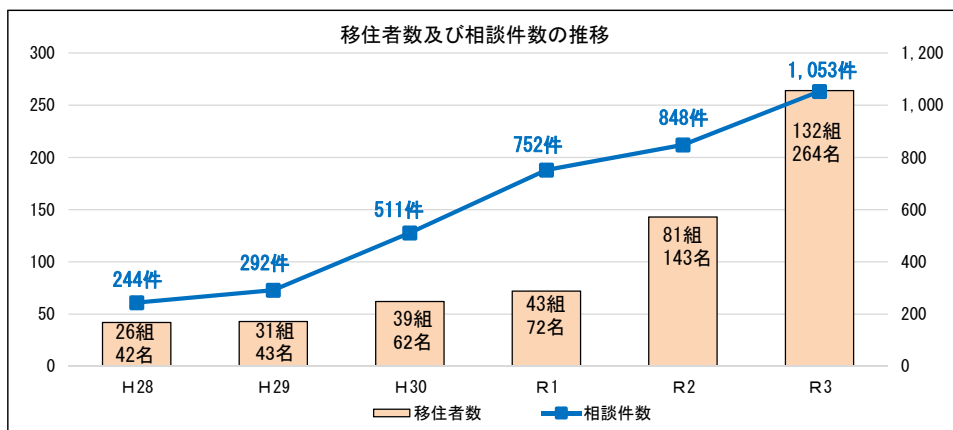


移住定住の推進に向けた基本的な考え方

- 「ふるさと山形移住・定住推進センター」(愛称:くらすべ山形)を中心に、市町村・産業界・大学等のオール山形による移住・定住施策を展開
- 産業・観光・精神文化をはじめとする様々な地域資源や安心して子育てできる環境など、本県全体の魅力を発信

令和3年度の「くらすべ山形」を通じた移住者及び移住相談件数の状況

○令和3年度の「くらすべ山形」を通じた移住者数は264名と、前年度の143名と比較して84.6%の増加(+121名)となった。また、移住相談の件数は1,053件と、前年度の848件と比較して24.2%の増加(+205件)となった。



※ H30までは県、R1は「やまがた移住定住・人材確保推進協議会」、R2以降は「くらすべ山形(一般社団法人ふるさと山形移住・定住推進センター)」

「令和3年度の市町村と連携した移住定住の推進の主な取組み」

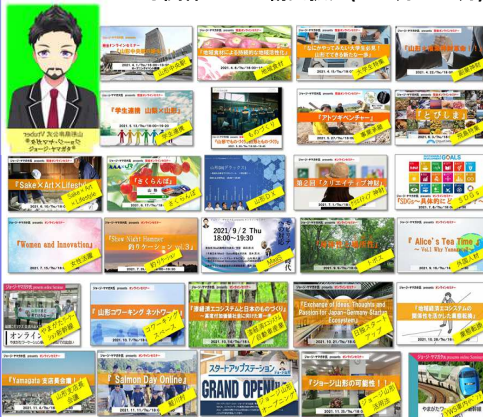
移住セミナーの開催 (R3.7月~R4.1月)



市町村、各総合支庁・地域振興局と連携し、各地域ごとに移住セミナー「やまがたハッピーライフカフェ」(県内6地域で実施)等を開催

※参加者:119組135名 (R2:53組86名)

V-tuber ジョージ・ヤマガタ氏 presents オンラインセミナーによる関係人口の創出拡大(R3.4月~12月)



4月1日から毎週木曜日に市町村とコラボし、霞城セントラルから様々なテーマをオンラインセミナーで取り上げ、山形での仕事、魅力を全国に発信

「くらすべ山形!移住・交流フェア」の開催(R3.11月)



東京交通会館(有楽町)において、首都圏の若者をターゲットに県・市町村・オール山形での首都圏UIターンフェアを、オンラインとリアルを組み合わせて開催

※参加者:138組200名 (R2:81組117名)

令和4年度の移住・定住の推進の取組み

(1)「くらすべ山形」を中心としたオール山形での移住・定住の促進

○移住相談・コーディネートの対応、首都圏UIターンフェアの開催

○市町村、JA等と連携した、移住者への食の支援



米・味噌・しょう油1年分

	二人以上世帯	単身世帯
米	60kg/世帯	40kg/世帯
味噌	3kg/世帯	2kg/世帯
しょう油	3ℓ/世帯	2ℓ/世帯

<米・味噌・しょう油の提供を受けた移住者の声>

- ・とても美味しいお米、味噌、しょう油をいただき、山形県は移住者を歓迎している印象を受けた。
- ・美味しかった。気持ちが嬉しい。
- ・山形らしいもので、普段よく食べるものなので嬉しい。
- ・自炊するにあたり、味噌、しょう油が必要だが、種類もたくさんあり、迷ってしまうのでとても参考になった。

○移住世帯に対する賃貸住宅の家賃補助

移住世帯が民間賃貸住宅に入居した場合、1か月あたり1万円(最長2年)を支援

○移住支援金の給付

東京圏から本県へ移住し、県内中小企業等に就業した方等に対して移住支援金を支給(①世帯は100万円 ②単身は60万円 ③世帯で移住の場合、18歳未満の帯同者1名につき30万円加算) 等

(2)本県全体の魅力発信

○インフルエンサーを活用した情報発信

幅広く本県の魅力を発信するため、フォロワー数が一定以上のインフルエンサーを活用した魅力発信(※産業・観光・精神文化をはじめとする様々な地域資源や安心して子育てできる環境など、本県全体の魅力を発信。)

(3)新しい視点に立った移住・定住促進策の展開

○「ヤマガタ移住・定住大学」の開催

市町村の移住・定住、関係人口施策を支援するため、実践者や研究者等による地方創生の体系的な知見や実践例を共有し、施策の深化を図る

- ①対象者:各市町村(首長、実務担当者)、地域おこし協力隊、有識者、くらすべ山形、県(本庁・総合支庁)等
- ②内容:移住・定住や関係人口創出のための知見や実践例など、実践者や研究者等からの学びの提供
県内市町村の取組事例等に対する実践者や研究者等からの助言、意見交換による施策の磨き上げ
- ③モデル的:1町村で実施する地区別人口推計を支援(補助)
結果及び結果に基づく住民参加による移住定住増加目標や具体的なアクションプランの設定等を他の市町村とも共有